

R4.11.18

令和4年度 第2回 徳島県G I G Aスクール構想推進本部 会議

徳島県G I G Aスクール構想推進本部事務局



次 第

日時 令和4年11月18日（金） 午前10時45分から正午まで

1 開 会

2 開会挨拶

3 協 議

- (1) 1人1台端末等利活用状況調査について
- (2) 調査結果と取組の進捗状況について（各部会より）
- (3) その他

4 閉 会

出席者名簿

所属及び役職	氏名（敬称略）	備考
徳島県教育委員会 教育長	榑 浩一	
徳島県市町村教育委員会連合会 会長	松本 賢治	
徳島県教育委員会 副教育長	臼杵 一浩	
徳島県小学校長会 会長	三屋田 朗広	
徳島県中学校長会 会長 徳島県中学校長会 事務局長	横畠 道彦 小川 善弘	欠席 代理出席
徳島県高等学校長協会 会長	湊 雅邦	
徳島県高等学校長協会 特別支援教育部会 部会長	喜馬 久典	
徳島県教育委員会 教育次長（県立学校担当）	中野 敏章	
徳島県教育委員会 教育次長（小中学校担当）	生田 雅和	
徳島県教育委員会 教育政策課 課長	小原 広行	
徳島県教育委員会 教職員課 課長	眞楢 秀也	
徳島県教育委員会 学校教育課 課長	今田 潤	
徳島県教育委員会 学校教育課 グローバル文化創造幹	寺澤 昌子	

出席者名簿

所属及び役職	氏名（敬称略）	備考
徳島県教育委員会 学校教育課 学力向上推進室 室長	上岡 祐司	
徳島県教育委員会 特別支援教育課 課長	田中 清章	
徳島県教育委員会 人権教育課 課長	久保 義博	
徳島県教育委員会 人権教育課 いじめ問題等対策室 室長	蔭山 善宏	
徳島県教育委員会 体育学校安全課 課長	吉岡 直彦	
徳島県教育委員会 生涯学習課 課長	倉橋 文代	
徳島県立総合教育センター 所長	古味 俊二	
徳島県立総合教育センター 学校経営支援課 課長	大栗 直子	
徳島県立総合教育センター 教職員研修課 課長	米田 直紀	
徳島県立総合教育センター GIGAスクール推進課 課長	濱口 和弥	

【事務局】徳島県教育委員会 学校教育課 G I G A・学び創造担当

武田浩明，河野恵子(小)，鈴江優子(中)，山崎理靖(高)，赤澤昌宏，川井賢一，片山文男，北田洋介

(1) 1人1台端末等利活用状況調査について

令和4年度 推進目標

■ 将来を見据えた推進目標

「D Xによる学びの充実に向けた効果的活用の推進」

■ 全体重点目標

① 各学校での毎日の活用

- ・ 日常的に活用することでスキルアップを図る。
- ・ 持ち帰りを推進し、切れ目のない活用を図る。

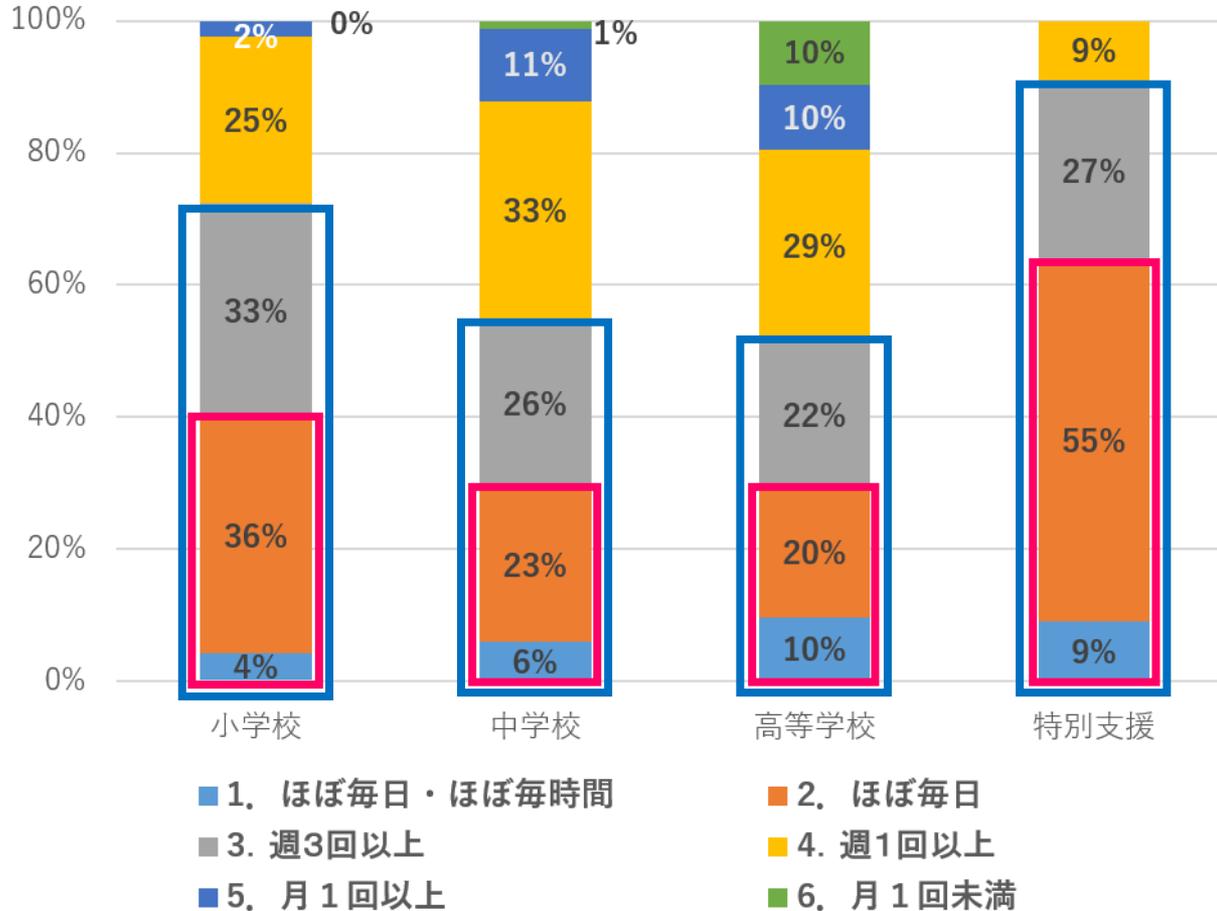
② 全教員が教科・科目のねらいにせまる効果的活用

- ・ I C T 活用を基盤とする「個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実」について、全教員が研究。

1人1台端末の授業等における利活用の状況調査

質問

今年の4月から夏休みまでの間、教師は1人1台端末をどの程度授業で利活用していましたか。



重点目標

①各学校での毎日の活用

◆ほぼ毎日以上の割合
(1. 2. の合算)

小学校	40%
中学校	29%
高等学校	30%
特別支援学校	64%

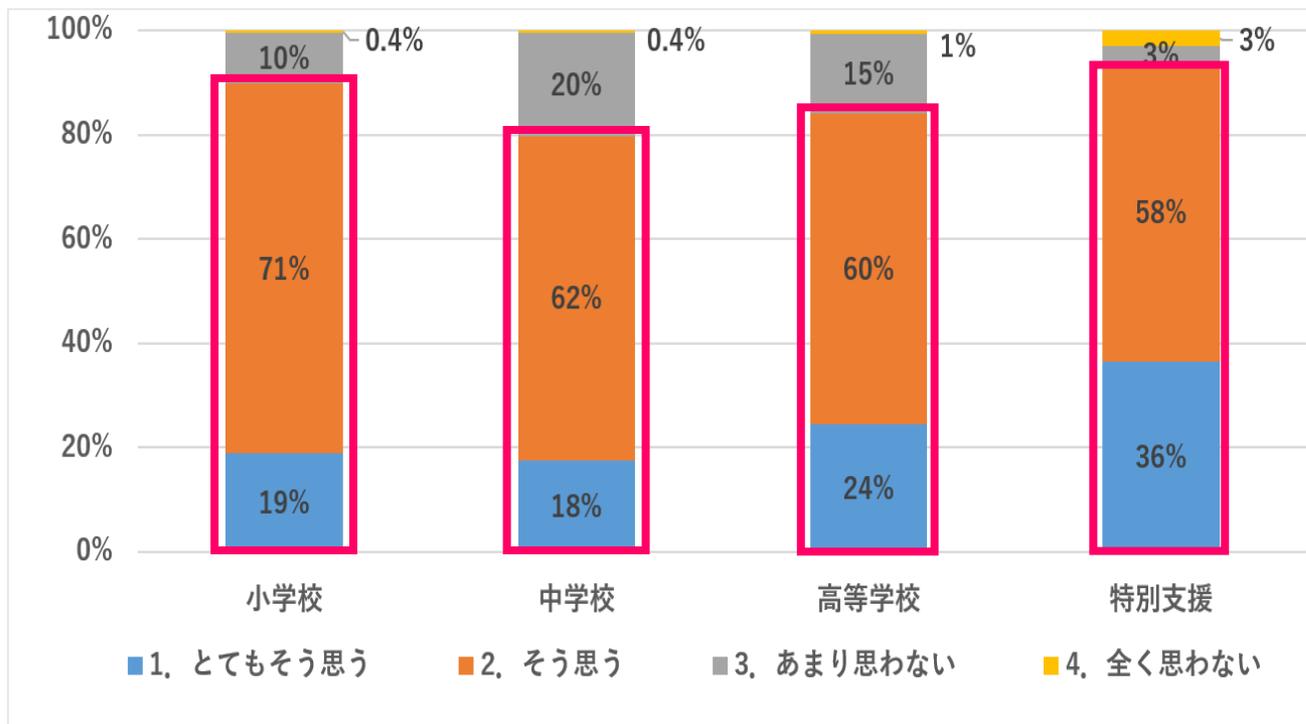
◆週3回以上の割合
(1. 2. 3. の合算)

小学校	73%
中学校	55%
高等学校	52%
特別支援学校	91%

◆昨年度末のアンケートでは、小・中・高の活用頻度60%以上の割合は3割余りであったことと比較すると、週3回以上を60%以上と考えると、すべての校種で向上している。

ICTの授業等における効果的な活用の状況について

質問 ICTを活用して学習効果を高める活用ができています。



重点目標

②全教員が教科・科目のねらいにせまる効果的な活用

■ そう思う以上の割合
(とても思う・そう思う)

小学校	90%
中学校	80%
高等学校	84%
特別支援学校	94%

■ すべての校種で8割以上の割合となっているが、判断基準は各学校によるので、校種別などのICT活用レベルを示すことを検討する必要がある。

具体的な活用

1. 教師が児童生徒全員の考えを共有させ、思考させる。
2. 教師がデータの即時集計や可視化をして、児童生徒に思考させる。
3. 教師が児童生徒にファイルを共有させ、共同編集させる。
4. 教師が児童生徒にコメント機能などで相互評価させる。

■ 小・中・高等学校では1. の回答が最も多い。特に、小・中学校では、他の項目の2倍近くの回答となっており、問題に対して児童生徒の意見を共有し考える授業での活用が多い。

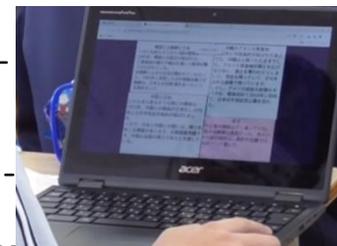
(2) 調査結果と取組の進捗状況について(各部会より)

- ・取組の進捗状況について

- ・取組の進捗状況について

令和4年度重点目標

学びを豊かにするICT活用と情報モラル・セキュリティ教育の充実



課題

- ・効果的な活用への深化
- ・苦手意識をもつ教員へのサポート

方策

- ・ICTを活用した研究授業，参観授業の実施
- ・学校全体で組織的に推進

取組の進捗状況

<具体的な取組>

- ・校内でGIGA担当の分掌を組織し，学校全体での推進を推奨
- ・部会通信を発信
- ・EdTechモデル校の公開授業参加推奨
- ・研修会等案内・情報モラルeラーニング作成

- ・GIGAスクール推進チーム(学校訪問等)による推奨
- ・部会通信による授業の参考例，資料等の紹介，活用促進，公開授業の参加推奨など
- ・情報モラルeラーニングの内容等を検討

調査結果

(1) 概要

- ・教師は，1人1台端末をどの程度授業で利活用している。 週3回以上 : 72%
 - ・ICTを活用して学習効果を高める活用ができている。 とてもそう思う，そう思う : 90%
- 具体的な活用方法として，教師が児童の考えを共有させ，思考させる場面で多く活用されている。教師が児童にファイルを共有させ，共同編集させることについては，高学年ほど多く行われている。

(2) 活用事例

第1学年 国語科

- ・子供たちのめあてである「わかりやすく説明する」を達成するために、タブレット端末を活用して、話し合いの様子を録画していた。自分たちの説明を客観的にみることで、自分たちの説明がめあてに沿ってできていたか確認するのに効果的な使い方であった。
- ・録画しておくことで、教師が後で子供たちの説明を評価することができる。

第4学年 体育

- ・AIソフト「プログラグビー」を使用して、勝つための数値の組み合わせをチームで話し合って決定し、どのような動きをしたらトライできるのかを一人一人が予測し、実際に勝敗のシミュレーションを行った。
- ・勝敗のシミュレーションを遅い速度で見ると、どんな動きをしている時に勝っているか(負けているか)を考察し、MetaMoJiに一人一人が記入した後、考察結果をチーム内で共有する時間を設け、それをもとにしながら、実際の動きをイメージした作戦を立てることができた。

調査結果の分析

- ・多くの学校の授業において、1人1台端末を日常的に使用するようになってきている。
- ・積極的な活用に加え、効果的な活用を意識した意欲的な取組が散見されるが、「効果的」の内実については、各学校や教師によって判断が異なるため、今後も検証・検討し、見通しを示していくことが必要である。
- ・小学校で身に付けた知識やスキルを中学校に引き継いでいくための「縦の連携」に対する意識と、好事例等を交流するなどの、教員が学び合うための「横の連携」に対する意識を高めていくことが課題である。

今後の対応

- ・授業の参考例、資料等の紹介、活用促進、公開授業の参加推奨や取組の意味づけなどを、部会通信やGIGAスクール推進チームにより進めていく。
- ・他校種の実践の活用や、授業参観への参加などを奨励していく。

令和4年度重点目標

1人1台タブレットの効果を生み出す授業改善

課題

- ・1人1台タブレットの有効性や便利さの実感
- ・1人1台タブレットの活用による学校と家庭の学びの連続性

方策

- ・教科、校種を超えた1人1台タブレットを活用した授業の共有
- ・「持ち帰り」も含めた1人1台タブレットを活用した家庭学習の充実

取組の進捗状況

- ・学校全体による教科、校種の枠を超えた組織的な推進を奨励
- ・部会通信を発信
- ・EdTech実施校の公開授業参加推奨
- ・研修会等案内

- ・GIGAスクール推進チーム(学校訪問等)による指導・助言
- ・部会通信による授業の参考例、資料等の紹介、活用促進など
- ・公開授業の参加推奨など

調査結果

(1) 概要

- ・教師は、1人1台端末をどの程度授業で利活用している。 週3回以上 : 55%
- ・教科の特性や単元(題材)によって活用場面に違いはあるが、学習効果を高める活用ができているかの設問に対して、「とてもそう思う」「そう思う」の回答が80%を超えた教科が6教科あった。
- ・学習効果を高める活用場面については、教師が生徒全員の考えを共有させ、思考させる活用が最も多く、次いで、教師がデータの即時集計や可視化をして、生徒に思考させることや、ファイルを共有させ、共同編集させる活用が多かった。

(2) 活用事例

【理科】

「いろいろな物質とその性質」



- 「実験計画を立案する」ことに重点を置いた、探究的な学習に取り組む授業。
- 見通しをもって実験計画を立てる活動に十分な時間を確保し、思考力を深める。
[MetaMoJi]
- 個人の活動と班での活動でタブレット端末を有効に使用。 [MetaMoJi]

【総合的な学習の時間】

「考えよう 私たちの平和宣言」

- 平和学習を通して学んできたことを生かし、平和宣言を作成。
[Microsoft Teams上でWord形式の文章を作成して提出]
- オンライン上で互いの平和宣言文を読み合い共有し、考えを深め、最終校正。[Zoom機能]
- 投票システムを使い、代表を決定。
[投票システム]

調査結果の分析

・各学校での使用頻度は、環境整備が進むことで増えてきており、引き続き使用頻度の向上(まず、週1回程度の活用を週3回程度に)を目指してサポートが必要と考えられる。同時に、各中学校区や市町村単位等、異校種との連携した研修をとおして、各教科の本質を捉えた学びや気づきが生まれるような授業を展開するための1人1台端末の活用について、具体的な協議をしていくことが、学習効果を高める効果的な活用を促進するためには重要と考える。

今後の対応

・GIGAスクール推進チーム(学校訪問、要請訪問等)による指導を引き続き実施するが、今回の調査結果の分析で見えてきた現状を踏まえた、より具体的な指導に重点を置いた指導・助言を行う。
・部会通信の発行により、活用事例を紹介していくと同時に、先進的に活用を進めてきた学校が乗り越えてきた道のり(課題や成果、工夫等)を紹介し、各校の活用頻度の段階に応じたヒントとなるようなものを紹介する。

令和4年度重点目標

タブレットの日常的な活用による「効果的な学び」を目指した、学校全体での組織的推進

課題

- ・「深い学び」につながる効果的活用
- ・学校と家庭の学びの連続性の確保

方策

- ・ミニ研究授業，教科会の実施，校内の好事例を共有
- ・「持ち帰り」や個人アカウントを活用した，家庭における学びの充実

取組の進捗状況

- ・学校全体での推進を奨励
- ・部会通信を発信

- ・GIGAスクール推進チーム(学校訪問など)による指導・助言，事例の収集
- ・部会通信による「持ち帰り」事例の発信
- ・GIGAスクール構想サポート事業の実施(タブレット操作実習)

調査結果

(1) 概要

《ICTの授業等における効果的な活用の状況について》

- ・ICTを活用して学習効果を高める活用ができています。
(「とてもそう思う」「そう思う」地理歴史，公民，数学，理科，保健体育，外国語，家庭，情報，特別活動，総合的な探究の時間等で80%を超えている。)
- ・個別最適な学びや協働的な学びの実現に近づく活用ができています。
(「とてもそう思う」「そう思う」全ての教科で50%を超えている。ほとんどの教科で60%を超えている。)
- ・専門教科においても，ICTを活用して学習効果を高める活用ができていない割合は約90%であるが，通信環境により実習場等での活用ができていない。

(2) 活用事例

《オフライン》

- ・1人1台端末を活用し、卓球のゲーム時におけるフォームを撮影し、良いところや改善点を個々が確認し、ワークシートに記入。
- ・ClassiによりExcelで作成したワークシートを事前配布。自分のペースで入力するなど、個別に学習に取り組むことが可能。自ら入力した数値をグラフで可視化し分析。

《オンライン》

- ・確認テストをMetaMoJi ClassRoomで配信。教卓にて採点。全問正解した生徒はT2になり、他の生徒をサポート。
- ・Microsoft Formsでアンケートを作成。名前を記録しないフォームに設定したり、家庭からも回答できるように送信期限を設定することで様々な意見を回収し、授業に生かすことが可能。

《その他》

- ・授業につながる内容の課題をタブレットに配信。
- ・(感染対策等で)できない調理実習を家庭で実施。動画で撮影。PowerPointにまとめ授業で発表。

調査結果の分析

- ・慣れるために使う⇒“ねらい”をもった活用へ。
- ・主体的な学びにつながるタブレット活用の仕組みが必要。
- ・「持ち帰り」や個人アカウントを活用した、家庭での活用。
- ・特別教室や実習場において活用できる環境。



今後の対応

【学校】

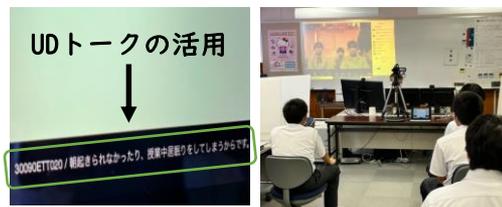
- ・ミニ研究授業等により効率的、効果的な活用を知り、“ねらい”をもった活用を含む授業をデザイン。

【部会】

- ・学習効果を高める活用事例を収集、発信。
(一人一人が異なる内容を学ぶことができるメリットを生かした、個別最適な学びの事例、主体的で対話的な学びにつながる事例)
- ・「持ち帰り」や個人アカウントを使った家庭での活用の事例の発信、共有。
- ・特別教室や実習場において活用できる環境の整備。

令和4年度重点目標

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの利活用の充実
～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～



字幕による情報保障 情報モラル研究会

課題

- ・情報モラル教育の充実
- ・個々の学びを支えるオンライン学習等の工夫

方策

- ・「情報モラル研究会」を設置し、協働学習を推進
- ・ICT活用による新たな学び・体験の創出

取組の進捗状況

- ①情報モラル研究会の設置及び児童生徒を主体としたオンラインによる会議を述べ4回実施
- ②オンラインによる学校間交流の促進
 - ・県教委主催による取組み
 - ・各校における取組み
- ③部会通信による好事例の発信

- ①情報モラル研究会を設置し、文字情報や手話の活用など工夫しながら発表することで、**県内特別支援学校12校の児童生徒が意見を交換**
- ②行事やスポーツ交流をとおした特別支援学校間の交流を進めるとともに、居住地校交流や地域にある学校との交流等**オンラインを活用した交流を積極的に実施**
- ③**タブレットを連絡帳として活用した好事例を共有**

調査結果

(1) 概要

部会員を対象に、「情報モラル研究会の取組状況」、「オンラインを活用した学校間交流」、「タブレットを連絡帳として活用した事例」についてアンケート調査を実施。

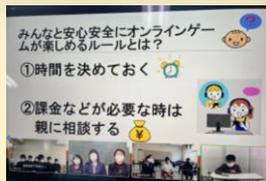
情報モラル研究会をとおした「ルールメイキング」等の進捗状況を確認するとともに、オンラインを活用した学校間交流の実施状況やタブレットを連絡帳として活用した好事例の収集を実施した。

(2) 活用事例

①情報モラル研究会

今はこんな約束(ルール)をしています

- 学校に来たら家でゲームができるなぜ? 義務教育(きむぎょういく)だから
- ゲームをする時間を決める・守るなぜ? 遅刻(おそく)や居眠り(いぬびり)してしまう



国府支援の発表内容 鴨島支援の発表内容

各校の児童生徒がオンラインでつながら、「安心安全にオンラインゲームを楽しむためのルール」をテーマに協議し、自分たちでルールづくりに取り組む

②学校間交流



パスの正確性を競い合う オンラインの様子

ルールや実施方法を工夫・改善し、「フリースロー」、「ドリブル」や「パス」を種目として競技化することで、オンラインでバスケットボール交流大会を実施

③タブレットを連絡帳として活用



授業の様子を動画や写真で保護者と共有

1人1台端末を活用し、学校と家庭との連携のために、動画や写真を活用した効果的な事例を共有し、活用方法や持ち帰りルールについて共有

調査結果の分析

- ・「情報モラル研究会」は、校内におけるリアルな話し合いをもとに、オンラインによる他校との意見交換をとおして、情報モラルについて主体的に学ぶ機会となっている。
- ・オンラインによる学校間交流は、特別支援学校間の交流及び居住地校交流や地域の近隣校との交流等を実施しており、直接交流が難しい児童生徒でも、他の学校の児童生徒と交流ができる機会となっている。
- ・タブレットを活用し、家庭をとおして専門家とつながる等、個のニーズに合わせた支援が深化している。

今後の対応

- ・情報モラル研究会においては、「教育版マインクラフト」を活用し、児童生徒がつくったルールについて、体験をとおして確認することにより、情報モラルターゲット表を作成する。
- ・各校からアイデアを収集し、マッチングすることで、オンラインによる学校間交流をさらに推進する。

みなと高等学園の生徒による仮想空間の構築



生徒によるプログラミング みなと高等学園の校舎を再現

令和4年度GIGAスクール構想推進本部

【不登校児童生徒の学びの支援検討】部会

令和4年度重点目標

タブレットの活用による「つながり」の強化
～「心のサポート」と「学びのサポート」の充実～



課題

- ・ 令和3年度「活用事例集」の活用推進
- ・ 「適応指導教室」との連携

方策

- ・ アンケート調査等による情報収集と内容のブラッシュアップ
- ・ 「適応指導教室」の実態把握と連携強化

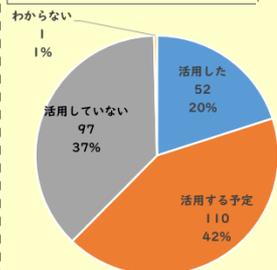
取組の進捗状況

- ・ 「活用事例集」の活用状況の把握
- ・ 各学校のICTを用いた支援の好事例、教育支援センターとの連携状況の把握
- ・ 教育支援センターのICT活用状況の把握

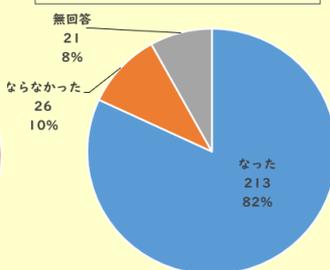
- ・ 学校訪問等による聞き取りの実施
- ・ 教育支援センター訪問・聞き取りの実施
- ・ 学校アンケート調査の実施（「活用事例集」の活用、ICTを用いた支援、教育支援センターとの連携等）
- ・ 部会通信の発信 ・ 第2回不登校部会の開催

調査結果 (1) 概要

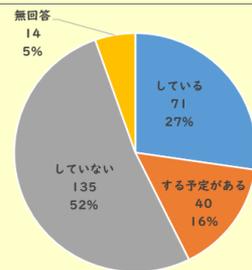
【活用事例集】の活用状況



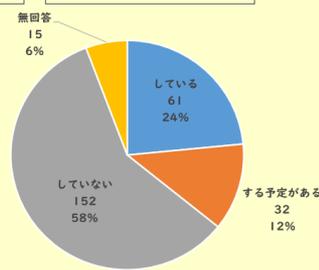
【活用事例集】は、不登校の指導や支援に参考となったか



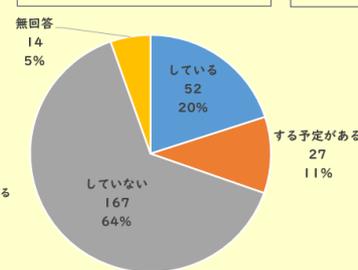
不登校児童生徒とのICTを用いたやりとりの状況



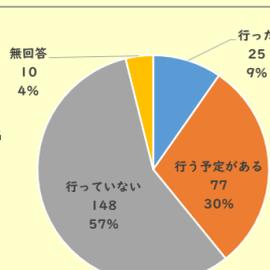
授業の配信



学校行事の配信



【活用事例集】を用いた職員研修の開催



(2) 活用事例

【心のサポートの好事例】

- ・SSWとの面談をWeb会議で実施。そのことで直接訪問に。
- ・夏休みの登校日をオンラインで実施。不登校生も参加。
- ・毎朝定時のチャットにより、学校とのつながりを保つ。
- ・Metamojiに本人と教員しか見られない「相談ノート」を作成。次の日の行動指針を示し見通しを持ち安心した登校へ。
- ・Metamojiに、子ども達の心の健康状態を把握できるシートを作成。よりきめ細やかな子ども理解につなげている。
- ・放課後、担任等とTeamsでつながり、家での過ごし方や学習の進め方のアドバイスや、学校の様子を伝えるなどを交流。

【学びのサポートの好事例】

- ・教育支援センターに通室する生徒が、センターに居ながらにして自分の学級の授業に参加することができた。生徒の学習の良い流れを創出できており、学習意欲の向上にも。
- ・別室登校の生徒に対して、Web会議を使用し授業に参加することができ、学習への前向きな取組が見られた。
- ・自宅と学級をつないで、授業を配信。
- ・始業から下校まで教室の様子を配信。スタンプ等で担任の問いかけに反応。担任の説明を聞いて作品作り等を行う。
- ・体調が悪く保健室にいる子どもや、家族がコロナに感染し休んでいる子どもが、Web会議で授業を行うことができた。

調査結果の分析

- ・活用事例集は不登校支援に有効である。⇒さらなる周知。職員研修会での活用の呼びかけ
- ・活用事例集をより使いやすいものにする。⇒好事例をさらに盛り込む。図表やイラスト掲載
- ・教育支援センターとの連携の必要性 ⇒各教育支援センターについての情報共有

今後の対応

- ・「第2回部会通信」の発信
- ・「活用事例集（改訂版）」の作成・配布
- ・「教育支援センター」の情報を共有

ICT環境を活かし「主体的・対話的で深い学び」を実現するため、教科指導等に関して指導助言

➤ 1人1台端末を活用した効果的な授業実践の推進

□ GIGAスクール教科等研究集会（7月・8月実施）

- ✓ 小中高の教科における端末を活用した効果的な授業づくりについて研修を実施

□ 「推進月間」による取組の促進（6月・11月実施）

- ✓ 端末を活用した公開授業・授業の相互参観などを依頼
- ✓ 各校の取組を各校HPに掲載を依頼（後に好事例記載のHPをQRコードで紹介）

□ 学校訪問を通じた指導助言

- ✓ 各学校の研究授業・公開授業を訪問、教科指導主事による指導助言

➤ 好事例の収集・発信

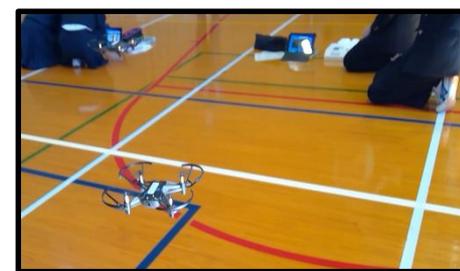
- ✓ 部会通信や「GIGAスクールの一日」を配信
- ✓ 学校訪問等を通じて好事例を収集

➤ 活用状況の把握

- ✓ アンケート調査や学校訪問による聞き取り



プログラミングでグラフ作図（足代小）



ドローンを教材として活用（佐那河内中）

【聞き取りなどからの課題等】

- ・「情報モラル」を学習し、習得する必要性
- ・「書く」・「端末活用」の両場面のバランスについて検討
- ・目標達成の手段として、どう端末を活用していくか検証

【今後の取組】

- ・授業づくりのヒントや先進事例及び「情報モラル」教育の好事例を各部会と連携しながら発信し、各校の取組が、より効果的な活用となるよう支援する。